

テーマ： 子供が理科の学びのよさを感じられる教材の開発と発信

宇都宮大学教育学部

附属小学校

Tel. 028-621-2291

担当者： 清水裕子



■実践内容:

附属小学校では、「理科を学ぶ意義を実感し、自然科学への関心を高める理科授業」をもとに研究し、以下のことを実践してきた。

(1) 授業の中で使っていく教材の工夫や単元や授業の展開の中での実践

- ・第3学年では、特に 形や体積と重さ、風やゴムの働き、生物などに関する自然事象に目を向け、色々な現象を比べながら学習していけるような教材開発と授業実践
- ・第4学年では、特に、人の体のつくりと運動、空気や水、物の状態変化、植物などに関する自然事象に目を向け、自分なりの見方や考えを持てるような教材の開発と授業実践
- ・第5学年では、特に、電流の働き、メダカの卵の変化の様子や動物の発生や成長、植物などに目を向けて実験を進めていける教材開発と授業実践
- ・第6学年では、特に、水溶液や物の燃焼、電磁石の変化や働き、土地のつくりと変化、人の体のつくりと働き（主な臓器の存在も入れて）などをその要因と関係づけながら調べていける教材開発と授業実践

(2) 理科室内や廊下に科学コーナーを設置

- ・ 理科担当教員の興味や特技を生かした科学コーナーを季節やその時々科学情報を取り上げながら設置、更新していった。

(3) 県内外の学校への発信

- ・ 初等教育研究発表会を通して、授業を公開したり教材を紹介したりした。
- ・ 宇都宮市内や栃木県内の学校を訪問する際に紹介した。

■実践成果:

子供が理科の学びのよさを感じられる教材の開発と発信をテーマに研究や実践を行ってきた。その中で、成果として次の点が挙げられる。意欲を高める観察・実験の設定を工夫したり、子供自ら自然を観る目を広げる活動を工夫したりすることで、子供一人一人が自然事象を科学的に見る力を使い、見の回りの自然に目を向けることができるようになってきた。また、自然と自分の生活とのかかわりを考えることができるようになってきた。

■実践ポイント:

子供が理科の学びのよさを感じられるように、できるだけ子供一人一人が多くの観察、実験をできるように教材の準備をしたこと。また、教材教具をできるだけ教師が自作するようにして、子供たちが使うことができるようにしたこと。